

心 理 学 科

■入門

541001 心理学概論

【到達目標】

- ・心理学とはどのような学問なのか、その考え方、ものの見方などを理解する。
- ・心理学の成り立ちを理解する。
- ・心理学の各領域について学び、心理学の全体像をつかむ。
- ・心理学の基本的知識を身につけ、どのような方法で研究されているのかを理解する。
- ・人の心の基本的な仕組みと働きを理解する。

【概要】 この講義では、初めて心理学に触れることになる1年次の学生を対象に、心理学の4分野を網羅的に概観し、心理学全体にわたる基本的な知識を身に付けることを目標とする。心理学の成り立ちや全体像をつかんだうえで、心理学の考え方やものの見方、人の心の基本的な仕組み及び働きを理解することも目標とする。講義の範囲は、知覚・記憶・学習・思考・感情・動機づけ・発達・社会・知能・パーソナリティ・臨床などの領域をできるだけ広く網羅する。領域ごとに異なる研究手法についても学ぶ。

■基盤講義

541101 発達心理学概論

【到達目標】

- ・発達心理学の基本的な知識を身につける。
- ・誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について理解する。
- ・認知機能の発達および感情・社会性の発達について理解する。
- ・自己と他者の関係のあり方と心理的発達について理解する。
- ・発達障害等非定型発達についての基礎的な知識および考え方を理解する。
- ・高齢者の心理について理解する。
- ・発達心理学の研究方法を理解する。

【概要】 この講義では、心理学を4分野に大別したうちの発達心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。人間の発達とは何かを考え、発達のメカニズムおよび発達を支える社会・文化的要因も含めて検討する。生涯発達心理学の視点から、乳幼児期・児童期・青年期・老年期について学んでいく。また、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、対人関係の発達・自己の発達・情動発達・道徳性の発達などの社会性の発達の側面と、知覚の発達・言語発達・コミュニケーションの発達などの認知発達の側面の両

面から扱う。さらに、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方や高齢者の心理も取り上げる。

541102 臨床心理学概論

【到達目標】

- ・臨床心理学の全般的・基本的な知識を身につける。
- ・臨床心理学の歴史を振り返ることで、研究・実践（臨床）面での実証科学としての心理学からの発展の経緯を理解する。
- ・臨床心理学におけるアセスメント論・心理面接論・地域援助論に関する理論・技法の要点を習得する。

【概要】 この講義では、心理学を4分野に大別したうちの臨床心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。まず、臨床心理学はいかにして、悩みや心の病、人生での困難への支援という実践的な科学という側面をもちながら、現在のような研究・実践（臨床）面での発展を遂げてきたのか、歴史的に振り返る。その上で、臨床心理学の3本柱である、アセスメント論・心理面接論・地域援助論について、代表的な理論・技法を取り上げ、学生が重要なエッセンスを習得できるように講義を行う。

541103 知覚・認知心理学概論

【到達目標】

- ・知覚・認知心理学とはどのような学問領域なのか、その考え方、ものの見方などを理解する。
- ・知覚・認知心理学の各領域について学び、知覚・認知心理学の全体像をつかむ。
- ・知覚・認知心理学の基本的知識を身につけ、どのような方法で研究されているのかを理解する。

【概要】 この講義では、心理学を4分野に大別したうちの知覚・認知心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。講義の範囲は、感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害など、知覚・認知心理学の領域をできるだけ広く網羅する。研究により明らかになった知見を体系的に身に付け、トピックごとに異なる研究手法についても学ぶ。授業で学んだ心の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。

541104 社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）

【到達目標】

- ・社会心理学とはどのような学問なのか、その考え方、ものの見方を理解する。
- ・対人関係や集団における人の意識・行動について基本的な知識を身につける。

- ・人の態度や行動に影響する要因について基本的な知識を身につける。
- ・家族・集団・文化が個人に及ぼす影響について基本的な知識を身につける。
- ・社会心理学がどのような方法で研究対象にアプローチしているか、その研究手法を理解する。

【概要】 この講義では、心理学を4分野に大別したうちの社会心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。さまざまに異なる個人が関係を結ぶことで成り立つ社会において、その構成員である個々の人間は複雑な相互作用のもとに行動している。「社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）」では、他者がいる場面での人の心理過程および態度・行動、個人間の相互作用過程、さまざまな対人関係、家族を含めた集団、文化、さらには個々人の行動の帰結として生じるマクロな現象まで幅広い領域を扱う。

541105 心理学統計法 1

【到達目標】

- ・統計分析を用いた心理学研究法の意義について理解する。
- ・心理統計（記述統計、推測統計の基礎）を正しく理解する。
- ・学習した心理統計の知識を利用して、数値例を分析できる。

【概要】 心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析を学ぶ。実証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究におけるデータの扱い方について理解することを目指す。この講義においては、心理統計の考え方について触れた後、記述統計および推測統計について、統計的な内容を実際の心理学研究に結びつけ、数値例を用いながら学んでいく。具体的には、「心理学実験演習ⅠA・ⅠB」で求められるデータの扱いができるようになることを目標とする。

541106 心理学統計法 2

【到達目標】

- ・統計的仮説検定の考え方について理解する。
- ・学習した心理統計の知識を利用して、自力でデータを分析できる。
- ・分析結果を正しく読み取り、報告書にまとめる力をつける。

【概要】 心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析を学ぶ。実証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究におけるデータの扱い方、さらに、それを論文という形でまとめる方法について理解することを目指す。この講義においては、データ整理、統計分析の実際を学ぶ。さらに、分析結果のまとめ方、論文での結果の書き方について解説し、ルールに則って正しくかつ分かりやすく記述する力を養う。

■発展講義

■認知心理学

541201 思考心理学

【到達目標】

- ・高次の認知過程に関する認知心理学的研究について体系的に理解する。
- ・高次の認知過程に関する認知心理学的研究の方法を理解する。
- ・授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し、説明する力を身につける。
- ・高次の認知過程に関する認知心理学的研究が、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養う。

【概要】 「知覚・認知心理学概論」で学んだ認知心理学に関する基本的理解をもとに、高次の認知過程（思考、あるいはその基盤としての言語）を取り上げて解説する。研究により明らかになった知見を体系的に身に付け、トピックごとに異なる研究手法についても学ぶ。授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。

541202 知覚心理学

【到達目標】

- ・人の感覚・知覚等の機序及びその障害について体系的に理解する。
- ・知覚に関する心理物理学的研究の方法を理解する。
- ・授業で学んだ知覚の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し、説明する力を身につける。
- ・知覚に関する心理物理学的研究が、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養う。

【概要】 「知覚・認知心理学概論」の学習内容に関する基本的理解をもとに、知覚心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。感覚・知覚の機序及びその障害について学ぶとともに、領域ごとに異なる研究手法についても学ぶ。講義内容の理解を深めるために、視聴覚教材やデモンストレーションなどを利用する。授業で学んだ知覚の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。

541203 神経・生理心理学

【到達目標】

- ・脳神経系の構造及び機能、記憶・感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要に

について理解する。

- ・神経・生理心理学的研究の方法を理解する。
- ・心と脳の関係、心と身体の関係について理解し、説明する力を身につける。
- ・神経・生理心理学的研究が、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養う。

【概要】 「知覚・認知心理学概論」で学んだ生理心理学に関する基本的理解をもとに、心と脳および身体に関わり合いについて正常・異常の両面から迫る神経・生理心理学の主要テーマについて解説する。具体的には、中枢神経系、自律神経系、内分泌系の構造及び機能、心の働き（感覚・知覚・運動・学習・記憶・感情・動機づけ）の生理学的反応の機序、高次脳機能障害・発達障害・精神疾患と脳などのトピックについて概説する。

541204 認知心理学

【到達目標】

- ・人の認知・思考等の機序及びその障害に関する認知心理学的研究および学際的研究について体系的に理解する。
- ・認知心理学的研究および学際的研究の方法を理解する。
- ・授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し、説明する力を身につける。
- ・認知心理学的研究および学際的研究が、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養う。

【概要】 「知覚・認知心理学概論」の学習内容に関する基本的理解をもとに、認知心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。記憶・認知の機序及びその障害について学ぶとともに、領域ごとに異なる研究手法についても学ぶ。認知科学や認知神経科学など、関連諸領域と融合した学際的な内容にも焦点を当てる。授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。

541205 学習・言語心理学

【到達目標】

- ・人の行動が変化する過程について理解する。
- ・言語の習得・理解における機序について理解する。
- ・学習・言語心理学の教育、福祉、臨床、職能開発などの実際場面への適用について考える力を養う。

【概要】 経験を通して人の行動が変化する過程と、その行動の変化の背後にある認知との関連が深い言語の習得における機序について理解することを目指す。具体的には、行動の

変化に関しては、条件づけ、問題解決学習、技能学習、社会的学習などについて学び、言語の習得に関しては、話しことば、文学、語彙、文章の理解力や産出力、文法の獲得などについて学ぶ。学習・言語心理学の教育、福祉、臨床、職能開発などの実際場面への適用について取り扱うこともある。

■社会心理学

541206 社会心理学（個人内過程）

【到達目標】

- ・社会的認知研究の知見を理解する。
- ・社会的認知の研究手法を理解する。
- ・自分が日常行っている判断・推論・評価について授業で説明された社会心理学の知識を用いて自ら考えることができる。

【概要】 「社会心理学概論」において学習した社会心理学の基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、私たちを取り巻く社会や他の人々あるいは、自分について私たちがどのような理解するのかその認知過程を解説する。その認知過程に影響を与えるさまざまな要因についても取り上げる。

541207 社会心理学（対人過程）

【到達目標】

- ・対人関係や社会的影響過程に関わる社会心理学の知見を理解する。
- ・対人関係や社会的影響過程に関する社会心理学の研究手法を理解する。
- ・自分が経験する対人関係や社会的影響過程について授業で説明された社会心理学の知識を用いて自ら考えることができる。

【概要】 「社会心理学概論」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解を深めることを目指す。本講義では、対人関係に関わる心理や社会的影響過程など、周囲の他者や環境との関わりのなかで生まれる心理について、主要なトピックを取り上げ、解説する。

541208 社会心理学（マクロ・集団）

【到達目標】

- ・社会心理学のマクロなものを見方を身につける。

- ・個人が社会あるいは集団からどのように影響を受けるかとともに、個人と個人の相互作用からどのように社会の諸相が形作られるかを理解する。
- ・授業で学んだ知見を現実の社会と結びつけ、世の中の出来事について社会心理学的に解釈する力を身につける。

【概要】 「社会心理学概論」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解を深めることを目指す。本講義では、個人と社会の関係をマイクロ・マクロ関係という視点から捉え、集合行動、社会規範、文化などのマクロ現象を取り上げる。集団・集団過程を取り上げることもある。

541209 社会心理学（応用）

【到達目標】

- ・授業で取り上げた応用研究の知見を理解する。
- ・授業で取り上げた応用研究の研究手法を理解する。
- ・現実の社会問題に対して、社会心理学の知見の応用可能性について自ら考えることができる。

【概要】 「社会心理学概論」において学習した社会心理学の基礎的理解をもとに、社会心理学における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、社会心理学の基礎研究に立脚した現実的な問題に焦点を当てた応用的な研究テーマに焦点を当てる。隣接する社会科学の学問において社会心理学研究が応用されている例を取り上げることもある。

■発達心理学

541210 発達心理学（情動発達）

【到達目標】

- ・情動発達のプロセスを理解する。
- ・情動発達に関する理論を理解する。
- ・情動発達に関する研究方法について理解し、この領域の特徴や意義を考えることができる。

【概要】 「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、情動発達（情動理解の発達、情動制御の発達、共感性

の発達、心の理論の発達などの中からトピックを選ぶ)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。

541211 発達心理学（社会発達）

【到達目標】

- ・社会発達のプロセスを理解する。
- ・社会発達に関する理論を理解する。
- ・社会発達に関する研究方法について理解し、この領域の特徴や意義を考えることができる。

【概要】 「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、社会発達（対人関係の発達、自己の発達、社会性の発達などの中からトピックを選ぶ)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。

541212 発達心理学（認知発達）

【到達目標】

- ・認知発達のプロセスを理解する。
- ・認知発達に関する理論を理解する。
- ・認知発達に関する研究方法について理解し、この領域の特徴や意義を考えることができる。

【概要】 「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、認知発達（言語発達・概念発達・推論の発達・記憶の発達・論理的思考の発達などの中からトピックを選ぶ)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。

541213 教育・学校心理学

【到達目標】

- ・学校教育現場で生じる心理学的援助介入が必要となる心理社会的課題について理解する。
- ・学校教育現場における心理学的援助介入の理論とスキルを身につける。
- ・学校教育現場を中心とした多職種との協働的支援のあり方や倫理的配慮の原則について理解する。

【概要】 「臨床心理学概論」の基礎的理解をもとに、学校教育に関係する場に特有の臨床心理学的援助介入について重要テーマをとりあげ、それらを解説する。また、現場で生じ

ている具体的な心理社会的課題及び必要な支援について背景にある理論とその実践について学ぶ。スクールカウンセラーをはじめとする専門家による支援の概要、学校および地域で展開する多職種協働による支援、社会からの要請や果たす役割、さらには倫理的問題等についても講義する。

■臨床心理学

541214 心理学的支援法

【到達目標】

- ・代表的な心理療法とカウンセリングの歴史及び理論と方法、適応と限界やその意義について理解する。
- ・関係者の支援や訪問による支援、地域支援、心の健康教育などの実践的な介入方法の特徴と課題、また、支援や介入の際のコミュニケーションの方法について理解する。
- ・心理療法における倫理的原則について考える力を養う。

【概要】 「臨床心理学概論」での理解をもとにして、心理的援助の基本となる心理療法の方法について深く学ぶ。心理療法の成り立ちを概観した上で、パーソンセンタード・アプローチ、精神分析、認知行動療法を中心に代表的な学派をとりあげ、各理論の歴史と背景、技法と適用範囲等の実際的な問題について論じる。心理療法という特殊な対人援助場面における基本的な留意事項、プライバシーへの配慮など倫理的問題を扱うとともに、関係者への支援、訪問による支援、地域支援、心の健康教育などの幅広い支援法についても講義を行なう。

541215 家族心理学

【到達目標】

- ・家族心理学の基本概念および背景となる理論を身につける。
- ・問題が起こっている個人ではなく、取り巻く環境としての家族等に働きかけるとはどういうことかについて理解する。
- ・家庭・学校・地域・職場等に対する介入や支援や協働における家族心理学の理論と技法を理解する。

【概要】 「臨床心理学概論」の基礎的理解をもとに家族心理学の歴史と内外の動向を概観し、それらの基本概念および背景となる理論について理解を深める。まず、問題が起こっている個人ではなく、取り巻く環境としての家族等に働きかける視点を学ぶ。その上で、家庭・学校・地域・職場等に対して、どのような介入や支援や協働を行うかについて、具体的な事例や視聴覚教材等を通して、家族心理学を実践的に学べるように講義を行う。

541216 産業・組織心理学

【到達目標】

- ・現代社会における心理臨床的支援や心理学的援助介入について理解を深める。
- ・臨床心理学や精神保健学の知見を活用した新しい視点で、現代社会における心理学的問題をとらえなおす力を養う。
- ・職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する支援、組織における人の行動について理解を深める。

【概要】 「臨床心理学概論」の講義において学んだ知識を前提に、組織における人の行動や現代社会における職場の問題への支援や介入に焦点をあて、臨床心理学、精神保健学の知見がどのように活かされているかを学ぶ。本講義では、個人のキャリア発達や産業・組織心理学の視点から現代社会をとらえ、現代に働く人びと、あるいは、働こうとしている人びとの抱える心理的問題（職業選択、仕事への動機づけ、職場におけるストレスやメンタルヘルスなどの中からトピックを選ぶ）について、その実態から支援や介入まで解説する。

541217 健康・医療心理学

【到達目標】

- ・ストレスと心身の疾病との関連性について理解する。
- ・医療現場における心理社会的課題とそれに対する支援について考える力を養う。
- ・保健活動の現場における心理社会的課題とそれに対する支援について考える力を養う。
- ・災害時などに必要な心理的支援について考えることができる。

【概要】 健康について、生物、心理、社会といった3つの側面から理解をすすめ、ストレスと心身の疾病との関連性について学ぶ。また、保健・医療現場におけるメンタルヘルスへの支援について、観察や投影法、質問紙法といったテストバッテリーの活用、心理相談、心理療法やSST、多職種間の連携、地域連携の理論ならびにスキル、職業倫理について解説をする。災害時などに必要な支援の在り方や心的状態への理解についても取り上げる。

■複合領域

541218 感情・人格心理学

【到達目標】

- ・感情に関する理論及び感情喚起の機序について理解する。
- ・感情が行動に及ぼす影響について理解する。
- ・人格の概念及び形成過程について理解する。
- ・人格の類型、特性等について説明することができる。

【概要】 感情に関する理論及び感情喚起の機序と、感情が行動に及ぼす影響についての理

解、さらに、人格の概念及び形成過程、人格の類型、特性等についての理解を目指す。具体的には、感情喚起の背景にあるメカニズムや表出された感情がその後の個人間や集団間の関係性にもたらす影響などについて学び、さらに、人格形成に関与する遺伝要因と種々の環境要因や、人格の理解や記述の方法として用いられる類型論と特性論などについても学ぶ。

541219 障害者・障害児心理学

【到達目標】

- ・身体障害、知的障害、精神障害について基本的な理解を深める。
- ・障害を抱える子どもや成人が体験している心理社会的課題について説明することができる。
- ・障害者・障害児に対して必要な支援について考える力を養う。

【概要】 身体障害、知的障害、精神障害といった障害に関する基本的理解をもとに、障害を抱える子どもや成人が体験している多様な心理社会的課題について具体的な例を通して学ぶ。さらに、障害児や障害者ならびに保護者やともに生きている人たちへの支援の在り方、例えばアセスメントのありかた、合理的配慮、発達の視点をもった介入法などについて解説する。

541220 精神疾患とその治療

【到達目標】

- ・精神医学の全体像(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。)について、広い観点から体系的に理解する。
- ・現代に多い精神疾患についての精神医学的知識を習得する。
- ・向精神薬をはじめとする薬物療法による心身の変化について理解する。
- ・医療機関との連携について考えることができる。

【概要】 精神疾患総論として、精神病理学、生物学、脳科学などさまざまな領域における最近の成果にふれつつ、発達障害、解離性障害、パーソナリティ障害、気分障害、摂食障害、心的外傷後ストレス障害など、現代に特徴的な病態を取り上げ、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援などについて学ぶ。またストレスやトラウマなどに関する生物学的、精神医学的研究についても広く解説し、人間、生命、社会についての理解を深めることを目標とする。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、および医療機関との連携についても触れる。

541221 福祉心理学

【到達目標】

- ・福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。
- ・福祉現場において子どもや成人・老人が体験している心理社会的課題及び必要な支援方法

について説明することができる。

- ・発達障害や虐待や認知症について基本的な知識を身につける。

【概要】 福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援方法、虐待、認知症に関する必要な支援方法について学ぶ。特に、児童福祉施設等において、子どもの発達に関する知識や各種心理検査等の技術をもって、子どもの状態、家族像、今の問題点等を包括的に理解評価することや、子ども虐待や認知症に対する十分な理解のうえ、幅広く関係を構築し支援を行う力を身につける。

541222 司法・犯罪心理学

【到達目標】

- ・犯罪・非行、犯罪被害について基本的な知識を身につける。
- ・家事事件の特徴や課題について理解する。
- ・司法・犯罪分野における心理的支援について考える力を養う。

【概要】 犯罪・非行に法律を適用する国の機関を中心に、犯罪心理学がどのように活かされるのかを学ぶ。犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件の基本的知識の理解と対応について解説するとともに、特に、警察、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院・刑事施設、保護観察所、犯罪被害者等の諸機関を取り上げ、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援、それぞれの役割や特徴、その実際や現状、抱えている課題等について深める。

■基盤演習

541301 1年次演習（心理学）

【到達目標】

- ・心理学の入門的なテキストを通じて、文献を批判的に読む力や論理的思考力を身につける。
- ・文献や資料の探し方を身につけ、自分で分からないことを調べる力を身につける。
- ・大学での学びに必要なアカデミックスキルを身につける。

【概要】 心理学の導入教育としての位置づけで、入門的な内容のテーマで演習を行う。具体的にはこれから4年間に渡る学びの基礎となるアカデミックスキル、例えば、文献を探したり講読したりといった図書館の利用、資料を調べてレジュメを作る技能、プレゼンテーションや意見交換を行うスキル、論理的思考力などの全般的な習得を目指す。少人数による緻密な演習を展開する。

541302 2年次演習（心理学）A

【到達目標】

- ・心理学の専門領域のテキストや論文を通じて、文献を批判的に読む力や論理的思考力を身につける。
- ・専門領域の文献や資料の探し方を身につけ、自分で分からないことを調べる力を身につける。
- ・専門領域の文献をレジュメにまとめ、発表し、討論するという演習形式の授業に必要な技能を習得する。

【概要】 「1年次演習（心理学）」を踏まえ、この授業では、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の入門的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、また、少人数という場を活用した発表と討論・質疑応答などを行う。論理的思考力や発表時の表現力を養うとともに、取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指す。

541303 2年次演習（心理学）B

【到達目標】

- ・心理学専門領域のテキストや論文を理解したうえで自分の考えを深める力を養う。
- ・専門領域の内外の文献や資料の探し方を身につけ、自分で分からないことを調べる力を身につける。
- ・発表や討論を通して、お互いの意見に耳を傾け、理解し、自分の考えを発展させることができる。

【概要】 「1年次演習（心理学）」を踏まえ、この授業では、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の入門的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指すことはもちろん、より進んだ「3年次演習（心理学）」で必要となるスキルを身につけることも目標とする。一部の演習で英語による授業をおこなう。

541304 心理学実験入門（心理学研究法Ⅰ）

【到達目標】

- ・心理学における実証研究の意義を理解する。
- ・実験法の基礎を理解する。
- ・測定方法の基礎を理解する。

【概要】 初めて心理学に触れることになる1年次の学生が、心理学の方法論を初歩的な実験などの体験を通して理解することを目指す。人のこころに対して実証的にアプローチすることの意味を解説し、こころを測定するということとは何か、その長所と限界について考える。特に実験法と質問紙法に焦点を当て、初歩的な実験や尺度構成を体験し、それらを通じて心理学の研究方法について基礎的な理解を目指す。

541305 心理学基礎実習（心理学研究法 II）

【到達目標】

- ・データを用いた実証的な思考方法や心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）に基づき観察法、面接法、投影法、質問紙による検査法、発達検査法に関する理論や目的について理解をする。
- ・観察法、面接法、投影法、質問紙による検査法の方法や実践や研究における倫理、分析や結果の記載のしかたについて理解をする。

【概要】 はじめて心理学に触れる 1 年次の学生が、データを用いた実証的な思考方法や心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）に基づき調査や研究において用いられる方法について体験を通して理解することを目指す。観察法、面接法、投影法、そして、質問紙検査法や発達検査法の基礎的な理論と方法、実践や研究における倫理、分析のしかたや結果の記述のしかたを概説する。実際にそれら研究法を用いた先行研究を理解し、自分たちでも体験学習を通して主体的具体的に学ぶ。

■発展演習

541401 3 年次演習（心理学）

【到達目標】

- ・心理学の専門領域の内外の論文を通じて、文献を批判的に読む力を身につける。
- ・専門領域の内外の文献や資料の探し方を身につけ、自分で分からないことを調べる力を身につける。
- ・専門領域の内外の文献をレジュメにまとめ、発表し、討論することを通して、発展的な内容を深く理解する。

【概要】 「1 年次演習（心理学）」および「2 年次演習（心理学）A・B」を踏まえ、この授業では、心理学の発展的な内容を題材とした演習を行う。それぞれの分野の発展的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた発展的な内容について深く理解することを目指すことはもちろん、卒業論文研究に主体的に取り組むことができるよう準備をすすめる、自立した学習者となることを目標とする。

541402 4 年次演習（心理学）A

【到達目標】

- ・心理学の研究論文を批判的に読み、研究計画に活かすことができる。
- ・心理学の各領域における研究の進め方ならびに、倫理的配慮への理解を深める。
- ・独自の関心にもとづいて、心理学的研究をデザインし、実行する力を習得する。

【概要】 4 年間にわたる学習の総仕上げとなる演習であり、学生各々の卒業論文研究の遂

行に必要な知識や技能の習得を目指す。この演習では、主として研究の前段階に必要な技能、例えば、文献の検索、文献の批判的な講読、先行研究を踏まえた研究の立案、予備実験や予備調査の実施、などを学ぶ。それぞれのテーマで卒業論文に取り組むための発展的な内容とし、卒業論文研究の遂行と両輪をなすような内容とする。

541403 4年次演習（心理学）B

【到達目標】

- ・心理学各領域における研究を、独自の計画・デザインにもとづき実際に行うことができる。
- ・データ収集、適切な方法での分析、結果の表示、結果の考察を行う力を身に付ける。
- ・研究論文としてまとめ、それを発表する力を習得する。

【概要】 4年間にわたる学習の総仕上げとなる演習であり、学生各々の卒業論文研究の遂行に必要な知識や技能の習得を目指す。この演習では、主として、データの分析、統計解析や検定の実施、得られた結果の表示と解釈、先行研究なども踏まえた考察、論文執筆の技法、などを学ぶ。また、研究発表と質的応答のための力を習得する。それぞれのテーマで卒業論文に取り組むための発展的な内容とし、卒業論文研究の遂行と両輪をなすような内容とする。

■実験・実習

541501 心理的アセスメント

【到達目標】

- ・心理的アセスメントの目的と方法（観察、面接、心理検査）、観点及び展開、倫理について理解する。
- ・知能、パーソナリティ、認知機能等を査定する個別のアセスメント方法の概要を理解し、検査の実施、結果の整理と報告ができる。
- ・テスト・バッテリーの組み方について理解をし、クライアントに役立つ所見作成の力を身につける。

【概要】 心理的アセスメントの目的、方法（観察、面接及び心理検査）、観点及び展開、適切な記録及び報告のしかた、倫理について理解を深める。質問紙法、描画法、知能検査、神経心理学的検査について、各検査法の特徴や実施・整理における留意点を学ぶ。被検者体験、またはロールプレイによる実習体験を振り返ることにより、アセスメント過程における倫理的な諸問題について体験的に理解する。最終的には所見の作成をおこない、支援に結びつく記述やフィードバックのしかたを考える力を養うことを目標とする。

（オムニバス方式／全15回）

（担当者A／7回）

パーソナリティを査定する個別のアセスメント方法の概要を学んだうえで、質問紙法およ

び描画法の特徴、実施・整理法、結果のまとめかたを、実習を通して学習する。質問紙法は集団法により実施し、描画法はペアでの実習を行うことによって、検査導入、実施、フィードバックにおける倫理的な諸問題について体験的に理解する。

(担当者 B／7 回)

知能、認知機能等を査定する個別のアセスメント方法の概要を学んだうえで、知能検査法および神経心理学的検査の特徴、実施・整理法、結果のまとめかたを、実習を通して学習する。ペアでの実習を行うことによって、検査導入、実施、フィードバックにおける倫理的な諸問題について体験的に理解する。

(担当者 A、担当者 B／1 回) (共同)

「心理的アセスメント」のガイダンスを行い、心理的アセスメントの目的と方法（観察、面接、心理検査）、テスト・バッテリーの組み方、クライアントに役立つ所見の書き方について学習する。また、実習を行うにあたっての検査用紙・用具等の取り扱いや倫理的配慮についても学ぶ。

541502 心理学実験演習 I A

【到達目標】

- ・心理学の各領域におけるさまざまな研究法（実験法・観察法）を実践し、その方法論を身につけることができる。
- ・定量的なデータの統計解析を、必要に応じてコンピュータを用いながら、適切に行う力を養う。
- ・数値データの統計解析を伴った心理学研究のレポートの書き方を理解し、適切なレポートを執筆する力を養う。

【概要】 心理学の基本的な研究方法の理解と研究技法の習得を目指す。心理学の代表的な研究方法のうち、本実験演習では、特に実験法、観察法に焦点を当て、それぞれ実習を通じてその技法を習得する。

(オムニバス方式／全 15 回)

(担当者 A／7 回) (実験法)

「心理学実験入門」（心理学研究法 I）に続き、心理学における実験法の基礎を学ぶ。主に知覚心理学、認知心理学の領域における基礎的な実験を体験することで、心理学実験における統制、測定について理解を深める。分析、報告書のまとめにあたっては「心理学統計法 1」の学習内容を踏まえて、具体的なデータを用いてデータの整理と記述の仕方を習得する。

(担当者 B／7 回) (観察法)

心理学における観察法の基礎を学ぶ。さまざまな事態や形態の観察法があることを学んだ上で、DVD 等を利用して観察を実施し、記録の仕方・データのまとめ方についての実験演習を行う。観察法を実施する際の留意点や観察の信頼性についても学習する。

(担当者 A、担当者 B／1 回) (共同)

「心理学実験演習 IA」のガイダンスを行い、心理学実験の進め方やレポートの書き方について学習する。また、心理学研究を遂行する際に必要な研究倫理に関する知識も習得する。

541503 心理学実験演習 I B

【到達目標】

- ・認知心理学、社会心理学の実験法とその意義を理解し、計画を立案して適切に実践する力を養う。
- ・質問紙調査法の基本について理解した上で、適切に実践する力を養う。
- ・定量的なデータの統計解析を、必要に応じてコンピュータを用いながら、適切に行う力を養う。
- ・数値データの統計解析を伴った心理学研究のレポートの書き方を理解し、適切なレポートを執筆する力を養う。
- ・心理学研究にまつわるさまざまな問題（研究倫理など）を理解し、それらに配慮した研究を行う能力を身につける。

【概要】 基本的な研究方法の理解と研究技法の習得を目指す。心理学の代表的な研究法のうち、本実験演習では、特に実験法と質問紙調査法に焦点を当て、それぞれ実習を通じてその技法を習得を目指すとともに、実験の計画立案についても学ぶ。

(オムニバス方式／全 30 回)

(実験法：認知心理学／10 回) (担当者 A／7 回, 担当者 B / 2 回, 担当者 A・担当者 B／1 回 (共同))

(実験法：社会心理学／10 回) (担当者 C／7 回, 担当者 D／2 回, 担当者 C・担当者 D／1 回 (共同))

実験法については、「心理学実験入門（心理学研究法 I）」および「心理学実験演習 IA」に続き、実験法の基礎を学ぶ。主に認知心理学、社会心理学の領域における基礎的な実験を体験することで、心理学実験における統制、測定について理解を深める。

(質問紙調査法／10 回) (担当者 E／7 回, 担当者 F／2 回, 担当者 E・担当者 F／1 回 (共同))

質問紙法については、質問紙調査法の基礎を学ぶ。本実験演習全体を通じ、具体的なデータを用い、「心理学統計法 1・2」の学習内容を踏まえて、データの整理、分析と記述の仕方、報告書のまとめかたを学ぶ。

*ただし、担当者 A と B、C と D、E と F を 1 名の教員が担当する場合もある。

541504 心理学実験演習Ⅱ

【到達目標】

- ・心理学の実験あるいは調査の方法について、実際に実験あるいは調査を計画・準備し、実施することで理解を深める。
- ・実験あるいは調査データについて主体的に考えながら分析を進めることを通して、実践的な統計的あるいは質的分析方法を習得し、レポートとしてまとめる力を養う。
- ・実験あるいは調査の実践を通して、心理学研究にまつわるさまざまな問題（研究倫理など）を理解し、それらに配慮した研究を行う能力を身につける。

【概要】 「心理学実験演習ⅠA・ⅠB」および「心理学統計法 1・2」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法の習得を目指す。小グループに分かれ、それぞれ実験あるいは調査を計画・体験し、その技法を習得する。実験あるいは調査実施にあたって配慮すべき様々な事柄についても学ぶ。データ分析に必要な統計的あるいは質的分析手法についても学習する。これらによって、実験法あるいは調査法を用いて卒業論文を書くための基本的な技法を身につける。研究によっては、実験や調査の手法を組み合わせる場合もある。

541505 心理学特殊実験演習

【到達目標】

- ・心理学各領域での研究を行う際に必要な知見・理論，研究動向，方法論などについての知識を身につける。
- ・各領域での発展的な研究方法を実践する力を習得する。
- ・より専門的な研究レポートの執筆に習熟する。

【概要】 「心理学実験演習Ⅱ」の次の段階であり、「4年次演習(心理学)」や卒業論文研究への準備段階として位置づけられている実験演習である。学生は、自分の卒業論文研究のテーマと内容を想定して、実験演習の内容を自分で選択する。心理学の領域ごとの必要性に応じて、卒業論文研究への前提として必要となる専門的な知識や技能の習得を目指す。具体的には、文献の検索、専門的な文献の講読、実験や調査等の研究計画の立案、研究の実施、データ分析と考察、プレゼンテーションやレポート執筆、などである。

■卒業論文

541601 卒業論文

【到達目標】

- ・学科・専攻での学びをもとに、研究テーマおよび問題提起を設定することができる。
- ・設定した問題について資料・文献等をもとにして仮説をたてることができる。
- ・仮説を検証するための適切な研究方法（調査や実験等）を計画・実施することができる。

・データを分析・考察し、得られた知見を研究論文として論述することができる。

【概要】 学生が自らの知的関心に沿って研究テーマおよび問題提起を設定し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実験・実習等により検証して、明確な根拠とともに提示するという一連の営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。それまでに得た知見・能力を統合してこの営みにつなげるために発展演習において考察・議論に必要な力を養い、担当教員の個別指導と授業内外の討論を活かして各自論文執筆を進める。卒業論文提出後、複数の教員による口述試験を実施し、論文の審査を行う。

■公認心理師特設科目

541701 公認心理師の職責 **

【到達目標】

- ・公認心理師の役割について理解する。
- ・公認心理師の法的義務及び倫理について、社会の実情に基づいて考えることができる。
- ・心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取り扱いについて理解する。

【概要】 公認心理師の職責に関する事項について理解することを目指す。具体的には、公認心理師の役割や公認心理師の法的義務及び倫理を、法律や社会の現状に基づいて学ぶ。さらに、心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、公認心理師自身の自己課題発見・解決能力の向上、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携のあり方について学ぶ。

541702 人体の構造と機能及び疾病 **

【到達目標】

- ・心身機能と身体構造について基本的な理解をする。
- ・代表的な疾病や障害について基本的な知識を習得する。
- ・がんや難病など心理的支援が必要な疾病とその心理的ケアの基本について理解する。

【概要】 細胞、組織、器官によって構成されている人間の体の基本的構造について学ぶ。さらに炎症、感染、免疫、腫瘍など、病気の成立に関係する病態生理について学習する。その上で代表的な疾病や障害（運動器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌・代謝疾患など）の基本的知識について理解する。また心理的支援が必要な疾患（過敏性腸症候群、気管支喘息、摂食障害、慢性疼痛、がん、パーキンソン病、終末期患者など）の心理的ケアの基本についても取り上げる。

541703 公認心理師に関する法律と制度（関係行政論） **

【到達目標】

- ・保健医療分野に関連する制度を理解する。
- ・福祉分野に関連する制度を理解する。
- ・教育分野に関連する制度を理解する。
- ・司法・犯罪分野に関連する制度を理解する。
- ・産業・労働分野に関連する制度を理解する。

【概要】 国民の心の健康を保持推進するための社会全体の制度や法律について広く学び、さらに心の支援に関する法律の全体像と援助者としての役割について理解する。具体的には、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野など、主要な五分野の法律や制度について、事例を紹介しながら解説する。また行政による住民サービスにおける心理業務の内容や課題についても知識を深める。

541704 心理演習 ***

【到達目標】

- ・心理支援を要する者に対するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援について、具体的な知識と技能を習得する。
- ・心理的支援を必要とする子どもや成人のニーズや心理的状态を把握し、支援計画を作成することができる。
- ・心理的支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて考えることができる。
- ・多職種連携と地域連携について实际的に考えることができる。

【概要】 知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、事例検討で取り上げる。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する、コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

541705 心理実習 ***

【到達目標】

- ・保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野について、心理的支援を要する者へのチームアプローチの実際を理解する。
- ・各分野の施設における多職種連携及び地域連携について理解する。
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務について臨床現場の特質・実情をふまえて考えることができる。

【概要】 次に掲げる事項について、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5

つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受け、基本的な水準の修得をはかる。(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(イ) 多職種連携及び地域連携。(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。(オムニバス方式／全 60 回)

(担当者 A、担当者 B／30 回) (共同)

見学実習は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働のうち、3 つ程度の分野の施設において行う。また、グループ毎に一定期間、保健医療、福祉、教育の分野などの施設で実践的な実習も行う。各実習の事前もしくは事後には、各分野における心理職の活動や多職種連携や職業倫理についての発表や討論、あるいは事例検討会などを行う。

(担当者 C、担当者 D／30 回) (共同)

見学実習は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働のうち、2 つ程度の分野の施設において行う。さらに、東京女子大学心理臨床センターの事例検討会への陪席も行う。また、グループ毎に一定期間、保健医療、福祉、教育の分野などの施設で実践的な実習も行う。各実習の事前もしくは事後には、各分野における心理職の活動や多職種連携や職業倫理についての発表や討論、あるいは事例検討会などを行う。